

森女×企業プロジェクトで 森林資源を活かす新事業創造の提案報告

～ 地域の森を見える化する教材や、端材の新しい活用方法等を考案！ ～

全国林業研究グループ連絡協議会は、「森と森の恵み」に関わる様々な女性（女性林業者から、森林・林業に関心のある女性まで広範に定義。以下、森女（もりじょ）と言う）のためのオンラインコミュニティ「森女ミーティング」を立ち上げ、株式会社シード（東京都文京区）、ホテル椿山荘東京（藤田観光株式会社）（東京都文京区）、野地木材工業株式会社（三重県熊野市）と連携して森林資源を活かした新事業創出を目指す「森女×企業プロジェクト」を実施しました。地域の森を見える化する教材「森のミッションノート」や、ホテルの庭園を利用した森林と持続可能性が学べる木育ツアー「日本の森と繋がるリトリート&スタディプログラム」、木材の端材の新しい活用をテーマに考えた「端材のたまてばこ」シリーズを考案。3月13日のオンライン成果発表会でそれぞれの企画の発表を行いました。

本プロジェクトは、林野庁の「令和2年度多様な担い手育成事業」の一環として、森林づくりの技術や経営改善、地域づくりや交流など森林・林業に関わる活動を行っている「全国林業研究グループ連絡協議会」が受託し、一般社団法人 全国林業改良普及協会が企画運営して行いました。

※公式サイト：<https://moriyo.com/>



■ 森女ミーティングとは？

この「森女ミーティング」は、全国各地で活動・活躍する森女がネットワークに参加し、日々の仕事や地域の暮らしの中で培った知恵、成功体験や課題を共有したり、また、森女と様々な分野で活躍する企業・団体とを結びつけることで、新しい商品やサービス、情報の共有や共感などを生み出し、社会へ広く発信していく試みのプロジェクトです。

① 森女 x 企業 PJ



② 森女ゼミ



③ 交流&情報発信



■ 「森女x企業プロジェクト」

森女 x 企業のコラボによって生まれた今年度の企画

企業3社と考案した企画は全て、全国各地で展開されることも想定した内容となっています。

(1) 住んでいる地域の森を見える化する教材「森のミッションノート」

株式会社シードとは、小学生や就学前の児童を対象とした教材「森のミッションノート」を考案しました。

共に暮らす生き物のこと、地域のこと「興味を持つ」きっかけをつくりたいというメンバーの想いと、シード社の企業ビジョン「眼の専門総合メーカーとして、お客様の『見える』をサポートする」から着想。自然環境から離れ、外遊びの機会が少なくなりがちな昨今の子どもたちを対象に、草木の色や形、森に住む動物たちを探すミッションが楽しめる教材となっています。教育機関等での利用だけでなく、各家庭でも楽しめるように、分かりやすくシンプルな作りになっています。

新学期が始まる4月以降、シードの工場がある埼玉県のシード鴻巣研究所に隣接する、複合型保育園（認可保育園、企業型保育園、学童）「ふくろうの森」などで、森女メンバーの指導と合わせて子どもたちが体験する機会を予定しています。



みっしょん④ 「もりのだからのちず」をつくろう!

みっしょん①～③であみつけたことをかいて、ちずをつくろう!

はっぱをかき→おはなや、くきをかき→いきものをかき→もりに「なまえ」をつける

おてほん もりのだからのちず
【あじとどんぐりのもり】

みっしょん① 「もりのはっぱ」 はっぱは、どんぐりかたちかな?

「もり」にきました。このもりには、どんぐりかたちの「はっぱ」があるかな? あみつけた「はっぱ」のかたちをかいてみよう。

おてほん	①	②	③
ぎざぎざのはっぱ			

大人の方へ(ご家庭用)

- 出かける際、お子さんに「森で何が育つのか、育になつたか覚えてたこと」自分の心も話げがけてください。
- 森では大人が先に獲えず、お子さんが自分で獲たことを大切にあげて下さい。
- お子さんと一緒に、獲れた木の観察を楽しんでください。
- 字が書けない子は、絵でいい。大人が代わりに書いてあげてあげてください。
- 子供用紙は、持参の紙でも構いません。
- 大人と子供、両方の観察の観察を大切にしてください。
- お子さんが育にたこと、大人が観察に連れて来て、持っているの観察に活用するといひよう。

※事前このものの用意!

- 準備するもの
- 葉っぱの観察紙
- 葉っぱの紙、筆、はさみ、色紙
- 葉っぱの下にのりかき(葉っぱの紙)を、事前に準備された紙の上にのりかきして、葉っぱの観察紙をつくる。葉っぱの観察紙の用意。

大人の方へ(指導者用)

- 事前に観察紙の用意をしよう。(観察紙の用意)
- 観察紙の用意をしよう。(観察紙、ペン、色紙)
- 観察紙の用意をしよう。観察紙の用意をしよう。
- 観察紙の用意をしよう。観察紙の用意をしよう。

大人向けの解説書付き

(2) ホテルの庭園を利用した森林と持続可能性が学べる木育ツアー「日本の森と繋がるリトリート&スタディプログラム」

ホテル椿山荘東京とは、ホテルの庭園や森女の知識を活用した森林と持続可能性が学べる木育ツアー「日本の森と繋がるリトリート&スタディプログラム」を考案しました。

「森」と呼ばれるほどに豊かな庭園を有するホテル椿山荘東京を舞台に、日頃から地球の環境問題やSDGsに関心がある都会に住む家族や学生などを対象に、ホテルの庭園や特設ブースなどを巡りながら、木の一生を楽しく体験することで「木を使うことは森を守ることであり、森林が持つ持続可能な循環について考える」きっかけを提供するプログラムとなっています。今年の夏休みに、親子をメインターゲットとし、森女×ホテル椿山荘東京によるオリジナルメニューの食事とセットになった、この体験プログラムを初開催予定です。

4. 概要

「木のお箸」という身近な素材を軸に、参加者が椿山荘の森や施設内に用意された木育ブースを巡りながら、木の一生を楽しく学べる体験ツアー。

HOTEL 椿山荘 TOKYO CHINZANJO ×

12. つくる責任
つかう責任

13. 気候変動に
具体的な対策を

15. 陸の豊かさも
守ろう

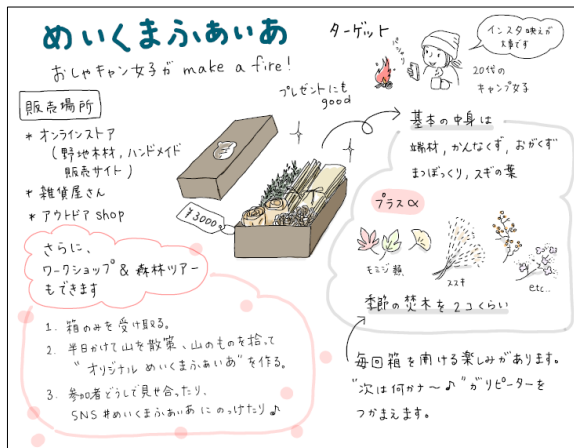
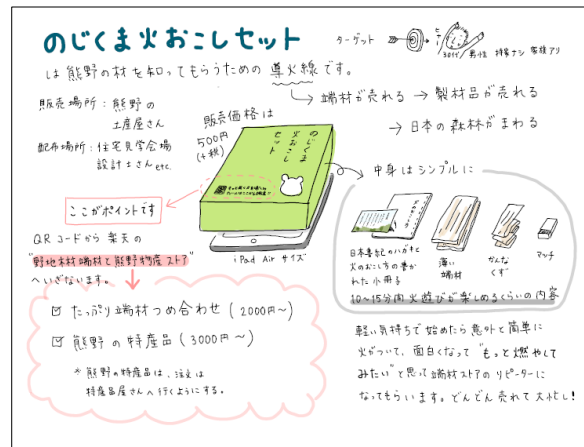
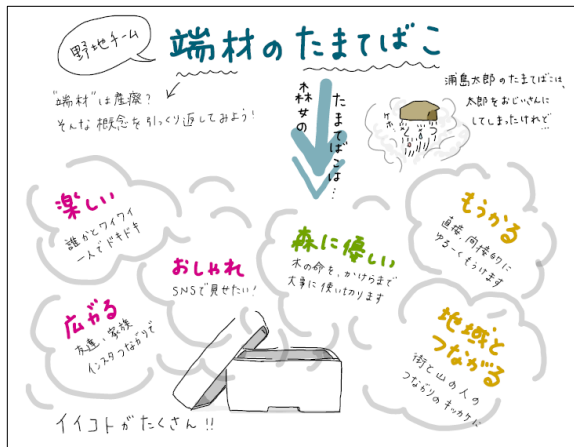
9. 学びの仕組み(1)

- スタート(知るコーナー)
 - 森の果たす役割を知る
 - 日本の森が抱える問題について考える
 - ドローンの映像等を使用
- お箸
 - 素材は多摩産スギ材:日本の人工林で一番植えられている。
 - 紙やすりで磨いて仕上げるキッドを使用:時間を短縮(所要時間:15分)
 - 椿オイルで仕上げる:椿山荘にちなんで
 - 焼き印を押す:かっこよくなる



(3) 端材の新しい活用方法を考えた「端材のたまてばこ」シリーズ

野地木材工業株式会社とは、家づくりのための製材加工の中で発生する端材を新しい切り口で活用し、「火おこし」のための「端材のたまてばこ」シリーズを考案しました。端材は産廃として破棄される、そんな概念をひっくり返したいという思いから、売れる端材ビジネスを森女ならではの目線で企画。子育て世代の男性をメインターゲットに、箱の中に端材、かんなくず、マッチ、日本書紀のハガキと解説冊子などが入った商品「のじくま火おこしセット（想定価格 550 円）」や、お洒落を楽しみたい 20~30 代の女性をメインターゲットに、端材やかんなくずのほか、まつぼっくりなどの木の实やきれいな葉っぱなどをプラスした、毎回、箱を開けるのが楽しくなる商品「めいくまふあいあ（想定価格 3300 円〜）」などの試作品を発表しました。今後は、試作品の改良を続けながら商品化、令和 3 年度中の販売開始を目指しています。



■ 令和 2 年度の連携企業と森女メンバー

第 1 期目の取り組みとなる今回は、様々な地域・分野・所属の森女（19 名）と、次の 3 社が連携し、ワークショップを通してこれからの地域社会に必要とされる森林資源の新しい価値づくりを行いました。

・「株式会社シード（東京都文京区、代表取締役社長：浦壁昌広）」

企業説明：『眼』の専門総合メーカーとしてコンタクトレンズ等の事業を展開

企業課題：次世代の子どもたちのための、森林環境や感性の教育のための機会をつくる

テーマ：地域の子どもや両親を対象とした環境教育と感性教育のプログラムをつくる

・「ホテル椿山荘東京（藤田観光株式会社）（東京都文京区、総支配人：山下信典）」

企業説明：宴会・レストラン施設と四季折々の庭園を有する老舗ホテル

企業課題：都会における木や森林環境に対する取り組みや多様な価値観に対する取り組み

テーマ：ホテル椿山荘東京だからこそその「癒しと森林環境の体験」を提供する

・「野地木材工業株式会社（三重県熊野市、代表取締役：野地洋正）」

企業説明：熊野など国産天然木にこだわった家づくりのための製材加工販売を行う

企業課題：国産木材の価値を高めたい！ 木の価値をあげるストーリーの見える化

テーマ：林業と木材への理解を深め、木材の価値を高め、売れる商品やサービスをつくる

・森女メンバー（シードチーム）

井原 香（北海道／北海道庁、豊かな森林づくりのためのレディースネットワーク・21）

※チームリーダー

柿本弘子（熊本県／森と暮らしの SINRINGAKU）

木村愛梨（岩手県／仙北造園）

木山美佐枝（鳥取県／木育サポート 森のきこりん、(有)坂本木工所）

佐々木久美子（秋田県／つばめの森保育園）

多田知子（東京都／木づかい子育てネットワーク）

早矢仕恵子（福島県／全国林業研究グループ連絡協議会女性会議）

・森女メンバー（ホテル椿山荘東京チーム）

和田弘美（香川県／香川県庁、豊かな森林づくりのためのレディースネットワーク・21、

林業女子会@かがわ）※チームリーダー

井上有加（高知県／(株)井上建築、林業女子会@高知）

大類智枝（栃木県／えがおをつなぐとちぎ木育の会）

木村衣里菜（山口県／山口県庁、豊かな森林づくりのためのレディースネットワーク・

21、林業女子会@山口）

坂本ちづる（石川県／全国林業研究グループ連絡協議会女性会議、穴水町林研）

山崎靖代（東京都／林業家、全国林業研究グループ連絡協議会女性会議、エンジョイフォ

レスト女性林研）

・森女メンバー（野地木材工業チーム）

宮嶋沙織（新潟県／林野庁）※チームリーダー

内田早苗（三重県／三重大学、林業女子会@三重）

岡田まり（三重県／三重大学、林業女子会@三重）

小田ちはる（宮崎県／小田林業、全国林業研究グループ連絡協議会女性会議）

砂山亜紀子（石川県／(株)中野、もりラバー林業女子会@石川）

松田直子（京都府／(株)Hibana、林業女子会@京都）

■ 関連組織（参考）

・全国林業研究グループ連絡協議会（全林研）：補助事業実施団体

森林づくり、人づくり、地域づくりを担っている自主的なグループです。全国におよそ1,000グループ、16,000人の会員がいます。

1. 技術研修・経営改善、特産品の開発などを通して豊かな森林づくりを進めています。
2. 若者、女性、子どもたちを対象に地域の森林づくりを担う人材の育成を進めています。
3. 地域の林業関係者と連携して森林を活かした農山村の地域づくりを進めています。

・一般社団法人 全国林業改良普及協会（全林協）：森女ミーティングの管理・運営

47都道府県の林業改良普及協会（一部山林協会等含む）を会員とし、全国の森林所有者、林業関係者等を構成員とする一般社団法人です。

森林・林業の改良・発展のための普及活動の実施や、国・都道府県が行う普及指導事業への支援を通じて、明るく豊かな農山村の建設、森林の多様な機能の発揮に貢献することを目的としています。この目的を達成するため、都道府県の林業改良普及協会と連携・協力して、さまざまな事業の展開により、森林・林業の改良・発展に向け、今日的な課題に対応した情報発信および普及に取り組んでいます。

・ボノ株式会社（我楽田工房）：森女ミーティングの企画・運営補佐、ファシリテーター、メンター

「地域から新たに百年の価値を創造する」会社として、全国の自治体や企業とともに新しい事業の創造やソーシャルデザインを行っています。人と地域をつなぐ交流スペース「我楽田工房」を立ち上げ、地域をテーマとしたイベントやフィールドワークなどを全国で展開。今日までに若者と地域をつなぐ地域交流事業「まち冒険」、地域の中で活躍する看護師を養成する「コミュニティナースPJ」、社会課題に挑戦するエンジニア研修プログラム「ソーシャルチャレンジャー」、地域おこし協力隊の募集前の段階から地域住民と共同で活動を構築する「地域リビングラボ」「地域おこし協力隊着任前インターンシップ」「地域おこし協力隊着任後研修」など、数々の地方創生プロジェクトを展開しています。

■ 問い合わせ窓口

運営団体：一般社団法人 全国林業改良普及協会

（担当）編集制作部 主幹 三石 麗

電話：03-3584-6625 E-mail：info@morijo.com